



## 木もれびの森に咲く貴重種植物

### クロヤツシロラン(ラン科・オニノヤガラ属)

クロヤツシロランは本州の関東以西、四国、九州に分布し、常緑照葉樹林、杉林、竹林で多く見られます。茶色い花の姿から、葉緑素を持たず土壤の共生菌から、栄養分を得る腐生植物(菌従属栄養植物)と言う事がわかります。花の萼片は基部で合着し3裂します。萼片の外側には白い小突起が多数あります。子房や花柄にはねじれは見られないので「ストレート唇弁下側タイプ」のランです。



花は1cm内外、茶褐色で派手さはありませんが、小さいのに妙に存在感があり、魅力的なランです。枯葉の色に溶け込んで見つけるのは大変でしたが、結実すると、花柄がぐんぐん伸びてみつけやすくなります。

森の中で、一昨年の秋、結実したクロヤツシロランが見つかり竹で囲い保護しました。昨年8月には、囲い内の半分を下草刈などの保護、半分を自然のままにして、比較観察してみましたところ双方とも9月下旬開花、10月中旬結実、花を確認できなかった所にも、10~20cmに伸びた茎の先端に結実した実を確認しました。



11月にはこもれびの森の別の場所で、結実した実から白い煙のように種を飛ばすクロヤツシロランを見て、感動し、森の環境の変化にヤツシロランがどう対応していくか見守り観察して行きたいと思えます。(目黒奈々枝)

## 木もれびの森の薬用植物 (6)

### クズ(マメ科クズ属)

クズ(葛)は8-9月頃花を咲かせる秋の七草の一つですが、繁殖力が旺盛で樹木をおおって枯らしてしまう害草でもあります。木もれびの森の整備されたところにはなく、端の方に少し残っています。晩秋の頃、葉は枯れ、茎の下部が年々木質化します。木質化した茎をリースの材料にして相模原市のイベントなどで販売するため、こもれびのメンバーは毎年つるを採取しに行きます。クズの根のでんぷんは葛粉として食用にされますが、市販品の大部分には馬鈴薯でんぷんが使用されています。



クズの根は生薬「葛根」の材料で、漢方方剤「葛根湯」などに使用されています。中国の漢の時代の「傷寒論」という古典に記載されている葛根湯が、最近の研究でかぜの初期にウイルスの増殖を抑制する効果があることがわかってきました。漢方ではかぜといっても「証」と呼ばれる体質や症状に合わせて様々な方剤を使い分けています。

葛根湯は、自然発汗がなく頭痛、発熱、悪寒、肩こり等を伴う、ゾクゾクしてふしぶしが痛むといったインフルエンザのようなかぜのひき始めの症状で、しかも比較的体力のある方に対して使われます。中国では、葛根湯は家族や職場で誰かが風邪をひいたら、その周囲の人が予防的に服薬するという使い方をするそうです。かぜには葛根湯だけではなく、桂枝湯、小<sup>けいしとう</sup>青<sup>しょうせいりゅうとう</sup>竜湯、麻<sup>ま</sup>黄湯、香<sup>こう</sup>蘇散、柴<sup>さい</sup>胡<sup>こ</sup>桂枝湯、麻<sup>ま</sup>黄<sup>おう</sup>附子細<sup>さい</sup>辛湯など様々な方剤を使い分け、かぜ以外にも肩こり等に葛根湯が使われる場合もあり、漢方は個人に合わせた処方なのです。(川村)

## 木もれびの森の樹木

### イイギリ(イイギリ科 イイギリ属)

温暖化のせいで、気候が大きく変化しているような気がします。

関東でも寒暖の差が激しく体の調整が大変です。歳のせいか体が思うようになっていけません。日本海から北の方まで雪が多く困っている様子をテレビで見ました。なぜか富士山には雪が少ないような気がします。

中央緑地の並びにある、民家側の通りからも良く見える場所に10数本のイイギリの木があります。4月から5月頃黄緑色の花を咲かせる雌雄異株の木です。

本州、四国、九州、沖縄、朝鮮、台湾、中国などに自生していますが、自然の森ではほとんど見かけることが少なくなりました。自然の森での自生地は神奈川県西丹沢標高700mくらいのところに群生していて、見る事が出来るそうです。

木の姿が「キリ」に似て大きな葉に飯を包んだ事からイイギリ(飯桐)の名がつけました。また、別名のナンテンギリは、果実が南天に似て樹皮は桐に似ているところから、ナンテンギリ(南天桐)と名がついたそうです。

秋11月頃になると、雌の樹にカンザシのような、赤色の果実が垂れ下がるのが見事です。実は小鳥の餌になるようです。12月はじめ道路沿いの実は、見事に道路上に散らばっていました。多分トリが群れで来てついばんだのでしょう。森の奥のほうには赤い実が残っていましたが、12月末頃には、きれいになっていました。

雄花、雌花の満開の時節には、一度見てみる価値があると思います。(田崎)



雌花 (5月28日)



雄花 (5月28日)



落葉まえの果実  
(11月5日)



落葉後の果実  
(12月10日)